

受験生の親子が語る
医学部
合格体験



**受験生の親の役割とは、
リングにボクサーを送りだす
セコンドのように思います。
しかしリングに立てるのは本人だけです。**

今まで一番楽しく勉強する
ことができた一年でした。

田村氏 直樹さんは、「メデュカバスで
の受験勉強を振り返ってみると、今まで
で一番楽しく勉強することができた
1年でした。」と話してくれました。

受験生の直樹さんは、お父様にはど
のように映つておられましたか。
横山氏 受験生にありがちな悲壮感な
どは全く無かつたですね。

家では表さなかつたのかもしれないませ
んが、あくせくしたり、辛いという感
じは彼からは全く受けなかつたですね。

直樹さん 心の奥底では常に受験を意
識していく、普段の生活の中でもいつ
も気を張っていましたが、メデュカバ
スでの1年間は、楽しく勉強できた1
年だつたと思います。

もちろん辛い時もありましたが、気
軽に相談したり、悩みを話せる人が周
囲に大勢いたので、焦つて追い込まれ
たり、孤独に勉強していたという感じ
ではなかつたです。

最も苦労したのは受験期間に入つてか

らのメンタルの維持でした。受験が連日
続き、試験の手応えがなかつたり、不合
格の結果を突き付けられたりしたのはと
ても辛かつた思い出です。

それでも諦めずに予備校に通い、戦
い続けたから最後に合格できたのだと
思います。

田村氏 そうですね。直樹さんはとて
も真面目な生徒さんでした。ご自宅か
らの通学生でしたが、授業を無遅刻無
欠席でした。受験勉強時代に最も心掛
けていたこととは何ですか。

直樹さん 毎日同じ時間に予備校に行
き、同じ時間に予備校を出るというルー
ティンを心掛けていました。

そうすることで、生活のリズムを整
えることができ、オンとオフがしつか
り区別できることが、勉強の効率UP
につながつたと思います。

**子どもに対し、医学部に行つて
欲しいとは一回も言つたことは
ありませんでした。**

田村氏 直樹さんが医学部を目指した
理由とは何ですか。

直樹さん やはり父親の影響が大きかったと思います。小さいころから父親を通して医師という職業をとても身近なものに感じていました。

小学校の時に、救急医療を取りあつたかったテレビのドキュメンタリー番組で、父が患者さんを救った緊迫した場面が特に印象に残っています。

横山氏 私が都立小児病院の新生児科部長の時の話です。収録中に、患者さんの緊急処置で私が主治医に出した指示が功を奏し、番組でその場面が放送されました。

直樹さん それまで父の仕事を見ることはありませんでしたから、とても強く印象に残り小学生の頃から医師の仕事は意識していたと思います。

それでも、父と特にその話をしたことはありませんでした。

横山氏 子どもに跡を継いで欲しいという考えはなかったので、医学部に行つて欲しいとも言つたこともありませんでした。私には、子どもにもそれぞれの人生があり、自分の将来は自分が選べば良い。自分が願う人生を歩めば良いという思いがあります。

ですから、あくまでも本人の自主性に任せ、受験に関しても余計な口出しは一切しませんでした。

彼が高校3年生の時に、大学は医学部を目指したいという思いを聞いた時には驚いたくらいです。

例えれば、親はボクシングのセコンドです。戦うのは選手である本人です。

田村氏 ご子息の医学部受験に対して、お父様はどのようにお考えでしたか。

横山氏 私は、親があれこれ悩んでも仕方がないと思っていました。ボクシングに例えれば、親はセコンドであって、戦うのはあくまでも選手である本人です。

セコンドの役割とは、選手の汗を拭いてあげたりクーレダウンさせたりして、戦える状態にしてリングに送り出していくことです。

それと戦える環境を整えることです。経済面などでも親に遠慮してしまわないよう気を配りました。

しかし医学部受験は何年勉強したから合格できる、という確たる保証はありません。

たとえ本人が望んだとしても際限なく受験を続けさせることは、本人にどうて良いのかという問題があります。

ですから、最後にギップアップのタオルを投げ入れるのは親の役割だと思い、その覚悟だけは密かに持っていました。

それでも、事の成否に関わらず受験で頑張った経験は、本人の将来にとって必ず役に立つだろうから、どんな結果であれ全てに無駄はないとポジティブに思っていました。

友達や先生方に恵まれたことが、心の大きな支えになりました。

直樹さん 一人で受験勉強をしている

と、気が滅入ってしまうこともあります。現役の時には大手予備校に行つていました。人それぞれとは思いますが、そこでは大人数の授業オンラインで人間

関係も希薄で、メデュカバスの雰囲気とは全く異なっていたと思います。

その点、メデュカバスでは良い友達に恵まれ、予備校全体もアットホームな雰囲気の中で一年間、楽しく勉強できたことが私にとってはとても良かったです。

田村氏

有難うございます。多くの受験生は常に不安を抱えています。そんな生徒さんを常に元気づけ、勇気づけて、前向きに勉強に取り組める環境を用意するのも私たち受験予備校の務めだと思います。

私にとって大きな助けとなりました。先生方や事務の方たちとの距離も近く、いつも気軽に声をかけていただき、時には勉強以外の話し相手になつてくれて、精神的にとても支えてもらいました。

それと、当校の生徒さんたちはとても仲が良くて、皆で助け合つて皆で合格しようという思いが強いですね。仲の良さは卒業してからも続いている、同期の仲間同士が事あるごとに学校に集まつてきています。それも当校の特徴といえるでしょう。

直樹さん 多くの卒業生が、頻繁にメデュカバスに顔を出していますね。私たちも同期の仲間で集まろうという時

に、多くの卒業生が、頻繁にメデュカバスに顔を出していますね。私たちも同期の仲間で集まろうという時

かといって、完全個別授業では生徒と先生との相性の問題もあるでしょう。ですから、小グループで生徒を引つて任せていました。

田村氏 有難うございます。多くの受験生は常に不安を抱えています。そんな生徒さんを常に元気づけ、勇気づけて、前向きに勉強に取り組める環境を用意するのも私たち受験予備校の務めだと思います。



田村 和香氏

メデュカバス 校長 英語講師

東京女子大学文理学部英米文学科卒、元両国予備校講師受験予備校の講師歴24年間のうち14年間を両国予備校の講師として、偏差値50前後で入学した受験生を、それぞれの志望大学に多数合格させてきました。受験生をより良き方向へと導くことを一生の仕事として、受験指導に情熱を注いでいる。



横山 哲夫(よこやま てつお)氏
YYキッズクリニック 院長

1980年慶應義塾大学医学部卒業、慶應義塾大学小児科学教室入局、1982年済生会宇都宮病院勤務、2009年都立清瀬小児病院新生児科部長、2010年都立小児総合医療センター新生児科部長、2010年YYキッズクリニック開設

には、ここが集合場所みたいになつて
います。

一緒に一年間を過ごした仲間との深い
繋がりは、大学の友達とは違うよう
に感じます。

仲間達と会うと、それぞれの大学の
授業内容の違いや特色など、知らない
話も聞けるので視野も広がります。

田村氏 私たちにしても、生徒さんた
ちが帰ってきたという感じで、とても
嬉しく思っています。

インプット・アウトプットの 授業では本当に鍛えられました。

直樹さん インプット・アウトプット
はとても良いカリキュラムでした。

自分が分からなかつたところを相手
に説明することで知識の定着ができま
したし、友達の出題から多くのこと
を学べました。

自分は疑問に思つていなかつた箇所
をグループの友達から質問されること
をグループの友達から質問されること

で、さらに深く考え方たり、同じ正
解であつても他の人とは考え方方が異
なつてたりと、常に新たな発見が多
く、とても鍛えられました。

田村氏 インプット・アウトプットの
授業とは、私ども独自のカリキュラム
で、生徒さんからの評価がとても高い
授業です。

これは脳が活性化する学力向上シス
テムで、自分が判らなかつた重要な問
題を講師から教えて貰い理解（インプッ
ト）し、次にその内容を少人数のグルー
プの中でメンバーに分かり易く説明（ア
ウトプット）するという授業です。

人に教えることを前提に学習します
ので、学習内容を十分に理解し整理、
整頓して脳にインプットする習慣が身
につきます。

失敗しても諦めない。 本番での失敗も

次の糧にすることの大切さ。

失敗しても諦めない。

本番での失敗も

次の糧にすることの大切さ。

田村氏 直樹さんは昭和大学が第一志
望でしたが、入試Ⅰ期では正規合格出
来ず、補欠の繰り上がり待ちでした。
しかしⅡ期試験で絶対に合格すると
強く行うようにしています。

今は医師にもコミュニケーション力
やプレゼンテーション力が求められて
いて、医学部生にも、OSCE（オス
キー）という、客観的臨床能力試験が
課せられています。

横山氏 そうですね。プレゼンテーショ
ン能力は、受験生に限らず医師の資質
にも求められるもので非常に重要だと
思います。

相手が理解できるように説明するた
めには、まず自らがしっかりと理解し
ていなければなりません。

それは、全体像をしっかりと捉えて、
どの切り口からでも説明できるという
ことです。中途半端な理解では説明は
できません。どんなに言葉を尽くして
説明しても相手が理解できなければ結
果はゼロに等しい。

相手が理解できるように説明するた
めには、大きな努力を要します。分かっ
ている問題でも、いろいろな角度から
くり返し検討し、頭の中で整理する必
要があります。

直樹さん I期で昭和大学が補欠と分
かった時は本当にショックでした。そ
の時は本当に落ち込み、呆然と2、3
日を過ごしてしまいました。

その後学校に行き先生方と相談して、
まだチャンスはあるからということで
II期受験を目指しました。

しかしI期で補欠だったといつても
II期が受かる確証はありませんでした
ので本当に必死になりました。

横山氏 私も何とかならないかと祈つ
ていました。たしかに厳しい状況では
ありませんでしたが、親がじたばたしても仕
方がありますんし、余計な干渉はむし
ろマイナスになると思っていました。

田村氏 まぐれで合格できるようなこと
はありませんから、直樹さんの勉強の成
果です。それに加えて、最後まで諦めな
かったからII期に合格できたのです。

生徒さんには、受験が終わつたら学
校に帰ってきて、試験で分からなかつ
た箇所をしっかりと分かるように検証
して、次の試験に臨むように指導して
います。

言つて頑張り、II期で正規合格を果たし
ました。

ご存知のように、II期試験は、国立が
不合格だつた人たちも受験しますし、
合格者数も少なく、とても難関です。

ですから本当に頑張った素晴らしい
生徒さんでした。

直樹さん I期で昭和大学が補欠と分
かった時は本当に落ち込み、呆然と2、3
日を過ごしてしまいました。

II期受験を目指しました。

まだチャンスはあるからということで
II期受験を目指しました。

しかしI期で補欠だったといつても
II期が受かる確証はありませんでした
ので本当に必死になりました。

横山氏 私も何とかならないかと祈つ
ていました。たしかに厳しい状況では
ありませんでしたが、親がじたばたしても仕
方がありますんし、余計な干渉はむし
ろマイナスになると思っていました。

田村氏 まぐれで合格できるようなこと
はありませんから、直樹さんの勉強の成
果です。それに加えて、最後まで諦めな
かったからII期に合格できたのです。

生徒さんには、受験が終わつたら学
校に帰ってきて、試験で分からなかつ
た箇所をしっかりと分かるように検証
して、次の試験に臨むように指導して
います。

特に理系科目では同じ単元が出題さ
れたりするので、たとえ失敗しても次
には絶対解答できるようにしておくた
めに、学校に帰ってきて振り返りの勉
強を行つようしています。



横山 直樹（よこやま なおき）さん
2015年 西武学園文理高等学校卒業
2016年 昭和大学医学部合格
受験勉強期間…1年間

ビネスです。
その原点は優しさで、そのためのプロセスは、「医療は楽しく」ということになります。
それと我が家では、家庭の生活リズムを特に受験生に合わせるということかもしれませんでした。

直樹さん 勉強に集中できる環境を整えてくれて両親にはとても感謝しています。

細かいことも特には言われませんでしたので、プレッシャーを感じることもなく、ほどよく自分の好きなようにやらせてもらえたのがびと楽しく勉強することができました。

横山氏 楽しくやるというのはとても重要です。楽しくやっていると時間が過ぎるものも早いし、次の興味にも繋がっていく。

辛い時ほど、今は樂しいと無理やり思っていませんが、親の役割だと思います。

そのためには、モチベーションを下げさせない。プレッシャーを過度に掛けすぎながら、実力が発揮できる環境を整えるのが親の役割だと思います。

田村氏 たとえわずかなチャンスで、それでも諦めずに、最後まで挑み続けたことがあります。

横山先生、直樹さん、本日はありがとうございました。

横山氏 自分が本番で失敗した問題を、もう一回振り返り勉強するのは辛いことだと思います。本音で言えば見るのも嫌だと思います。

でも、そこに宝があるということだと思います。それを実践させているから信頼できるのです。

直樹さん たとえ本番で失敗したとしても、それで終わりではないということですね。最後まで諦めないと、最後の勝敗を決めるのだと思います。

受験勉強も、とにかく楽しくやることが大切だと思います。

横山氏 本番で実力以上が発揮できればこの上ないので、逆に本来の実力が発揮できなかつたとなると、一年間の勉強が全て無駄になってしまいます。

横山氏 楽しくやるのではなく、ほどよく自分の好きなようにやらせてもらえたのがびと楽しく勉強することができました。

横山氏 楽しくやるのではなく、ほどよく自分の好きなようにやらせてもらえたのがびと楽しく勉強することができました。

直樹さん 受験生の皆さんには、最後まで諦めないでほしいと伝えたいです。

私は第一志望の昭和大学にⅡ期で合格しました。Ⅰ期で補欠だったときにはとてもショックを受けましたが、まだチャンスは残されているとⅡ期に挑戦しました。

最後まで諦めないで挑み続けてほしいと思います。

直樹さん 父の考えにはとても影響を受けています。日頃から楽しくやれと言われていましたので、常にそれを心掛けていました。

横山氏 そのためには、常日頃から意識することが大事なのです。

両国予備校の伝統を受け継ぐ、全国で唯一の予備校

 **MeducaPass**

私立医学部受験予備校メデュカパス

お問い合わせ

TEL:03-5229-7088

〒162-0843 東京都新宿区市谷田町2-23-8 第2三幸ビル
FAX : 03-5229-7089 <http://www.meduca-pass.org/>

YYキッズクリニック

〒202-0012 東京都西東京市東町1-1-22

TEL.042-410-0101

<http://www.yykids.jp/index.html>

小児科専門

